

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3770103111		
法人名	有限会社國村不動産		
事業所名	グループホーム愛の里		
所在地	高松市上福岡町2005-11		
自己評価作成日	令和1年12月1日	評価結果市町受理日	令和2年3月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アストリーム・アライアンス		
所在地	香川県さぬき市津田町鶴羽2360-111		
訪問調査日	令和2年1月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自由に出出できない入居者のために、季節の花等の観賞やボランティアによる演芸等の行事を1回/週以上の行っている。また地域との交流維持のため餅つきや、夏祭りといった地域の住民の方々が参加できる行事を行っている。
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

事業所のある地域は区画整備事業により道路事情や、交通のアクセスが良くなり、近隣には新しい住宅が建てられている。事業所の近くには公園があり、地元の自治会の協力で夏祭りを開催し、地域住民やボランティアなどに交流の機会が提供されている。また、適時や季節ごとの外出や、慰問を通じて地域とのつながりが深められている。普段の生活の中では、利用者と職員が出来るだけ一緒に行動し、コミュニケーションを取りながら少しでも長く寄り添うことが意図されており、レクリエーションやくもん学習療法などが行われている。また、家族や本人の希望に沿って看取り介護も行われており、終の棲家となる支援もなされている。さらに、働き易い環境整備の一つとして、男子寮なども用意されている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1		○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員トイレ、事務所、更衣室等々、理念を目につきやすい場所に貼り、意識共有に努めている。朝食前の体操時、締めくりに理念を口にする事で、利用者様とも共有を心掛けている。しかし実際、笑顔ばかりで過ごす事は難しく実践を不十分と感じる事も多い	「笑顔で過ごしましょう」の理念には、何事にもミスはつきものだが、ミスをみんなでカバーし合って、笑顔で一日が終えられるようにしましょうとの代表者の意図があり、職場での報・連・相に通じるものとなっている	
2		○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	夏祭、餅つき、ハロウィン等々、地域交流を心掛けている。外食、おやつレクリエーション時には、なるべく地域活性、交流を意識し地域近隣施設の店の使用等を心掛けている。公園への散歩、御庭の薔薇見学等の季節に応じたの交流も行っている	季節に応じた外出や行事、慰問を通じて地域交流を行い、地域住民やボランティア達と馴染みの関係が築かれている。外出には地元の店や民家の草木を尋ねており、協力者や近所の方とも普段着の交流が出来ている	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議等を通じて地域の方々への施設状況、認知症と共に生きる利用者様についてを伝え、相談窓口となれるよう意識している。レクリエーション時、近隣店舗を利用する事で身近に感じたり実際の声掛けや直接介護支援等を眼にして頂ける様、意識している		
4		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの実際は事故、研修、病気等々を含め会議時に報告、評価等をお知らせし、その場で質問や意見を受けている。実際、質問から対応を掘り下げ、より健やかに安全に過ごして頂ける様、支援サービス向上を意識している	運営推進会議では、事業所の現状や取り組みについて連絡や報告が行われている。質疑や応答を通じて事業所の在り方が良く理解されている。参加者については、主に家族や家族のOBで構成されている	運営推進会議では、様々な立場や地域の代表が会議に参入することで、事業所の理解や協力関係がより一層進むことが望まれる
5		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域の公園の使用、会議での意見交換の場、電話連絡等々により事業所としての実情の理解、サービスの実際を伝え、双方に協力関係が築ける様に努めている	運営推進会議には包括支援センター職員等が参加している。必要に応じて市職員に電話や直接出かけて問い合わせをするなど、協力関係が構築されている	
6		○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議、勉強会の場等で県の拘束における指針を周知し、全員が意識していく様に心掛けている。各フロアでは利用者様個別により医師からの指示も有り、随時報告、相談を行いながら拘束をしない、懐柔を目指し取り組んでいる	身体拘束をしないケアでは、職員が必ず研修を受け全体会・勉強会で主要な議題として周知されている。点滴など医師の指示があるとき等は個別ケアに取り組まれている	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士が互いに勉強会等で学び合い、意識して利用者様と関わる事が出来る様心掛けている。休憩室等への貼り紙、会議の場での施設長からの話等、普段から虐待を防止出来る様に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業や制度についての直接の学びの機会は少なく、間接的に周知、情報共有しているのが常になっている。様々な家族、利用者様の姿が有る中で、より個々の必要性に応じた支援提供が出来る様に連携、活用する必要が有る		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学時、直接面談時、契約時、説明確認を行っている。又契約以降も、適宜に不安や疑問について傾聴を行い、理解、納得して頂ける様に努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、会議の場での要望、質問に対して対応している。意見箱の中身に関して個人特定出来ない様に掲示、答えを伝える以上に、それらを踏まえた上での全体会議等の場での施設長による周知、話、運営反映を心掛けている	玄関に意見箱が設置されている。面会や運営推進会議、家族会などで意見や要望が集められ、代表や管理者により速やかに検討、結果がフィードバックされている。職員にも会議等で代表から周知連絡され、運営に反映がなされている	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見提案等の場実際に、参加出来る機会が少なく、偏りが目立っている。結局、個人が直接に施設長へと話をしに行ったりする事が多く、個々の業務間や業務外の時間に聞く機会を設ける必要があるのが通常である	管理者は何時も職員の意見を聞く用意があり、その都度コミュニケーションをして理解を得ようとしている。円滑なコミュニケーションが運営につながっていることで、職員が安心して働きやすい職場環境になっている	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力実績、状況の把握は行えているが、やりがい以上にプレッシャー等への配慮に差が有り、業務の負担や偏りは否めない。その中でも向上心を持ってよう、少しでも働きやすいようにのフォローや手当、整備等に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部への研修確保を行い、定期的な学びの機会を設けているが、全体的な育成の取り組みにはなっておらず偏りがある。また選択権が無く、独裁的な研修参加、研修参加した結果が活かされていない、参加しただけの実際の理解が乏しい認識者が多い		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会、講演会に参加した者は同業者と交流する機会が持て、意見交換等が行え、ネットワーク作りや訪問機会を意識している。また各々が交流により得た情報や機会を活かそうとしている		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様が職員に対して話しやすい関係に慣れる様、信頼関係を築ける様に、寄り添い、気遣いの気持ちを大切に声掛け、会話を行う様に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っている事、不安な事、要望等、面会時や電話時に適宜、打ち明けて頂ける様な声掛けを心掛け、傾聴を実施し、どの職員にでも話して頂けるような関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	聞き取り、見極めの際、どうしても本人様以上に家族様の必要としている、望まれる支援等が優先されている事が多く感じる為、何を望まれるか、どう過ごされたいかを想像しながら可能な限り最善のケア導入を心掛けている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、洗濯物たたみ、干し等の日常生活の色々な作業と一緒に頂く事で、職員も助けられ、利用者様に感謝を伝え、ともに生活環境を過ごしている事を意識してもらるように心掛けながら、自力の力も少しでも利用者様自身で意識してもらえるよう意識している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出、施設内行事の案内、参加を御誘いし、本人様と家族様の絆、関係性が希薄にならないように大切に、ともに利用者様の生活を支えていけるように心掛けている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様や御友人等の面会時、本人様の居室にて落ち着いて一緒に過ごしてもらえるように配慮している。希望に応じて、家族様との外出の対応もしている	面会は比較的多く、居室でゆっくり話せるよう配慮されている。受診や外出時には家族と一緒に掛かけたり、付き添ったりと協力関係が構築されている	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の関係性、個性を理解しながら利用者様への声掛けが偏らない様に意識して対応を行っている。居室で過ごしたい、皆と居たい等の希望に応じて対応を行っている。妄想、相性の影響もありテーブル位置も配慮している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も地域住民としての会議参加や行事案内を通し、関係性を保ち大切にさせて頂いている。疾病や物品購入等についての相談、支援、協力も努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の聞き取り、対話等により意向や希望の把握に努めている。観察力、対話力等を高め柔軟な対応に努め、整理整頓や片付けも一緒に取り組み、困難時には確認して貰い本人主体の支援や対応を心掛けている	例えば、くもん学習療法等により利用者一人ひとりに付き添える時間を長くして、本人の言葉や表情を汲み取り、思いや意向の把握に努められている	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様からの聞き取りが主体になっていたが、くもん学習療法での対話を通じ、昔話から生活歴や馴染み、環境等々の把握に繋がる事も多い		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録、ノート等を活用し報告、連絡、相談を意識している。現状の把握や1日の流れでの変動、変化に関しても密に適宜、把握や情報共有する様、目標に掲げたりしながら努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のミーティング時や、それ以外の場でも利用者様の状況に応じての意見交換、家族様からの意見収集に努めた上で、介護計画の作成や支援提供に努めている	ユニットごとのミーティングを中心に、利用者について意見交換したり、本人家族や、医療関係者等からの意見を集約して、介護計画が作成されている	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	随時、記録用紙の見直しをしながら日々の様子や言葉、ケアについてを個別に記録している。ケアプランのチェックも忘れずを心掛け、計画の見直しにも活かせるように気を付けている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様が対応が厳しい場合等、付添い介助等受診している。GW時等、特別な場合でも適宜、担当医と相談し、協力病院以外の対応も行い、状況やニーズに応じて臨機応変を心掛けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣公園の活用、保育園児との交流、施設設備の活用により外気浴を楽しんだり散歩を楽しんだり出来るように支援を心掛けている。衰え始めた身体を再認識し、日々の運動の心掛けにも繋がっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様の状態の把握、情報共有を心掛け、家族様や利用者様の要望、希望を尊重し対応している。掛かりつけ医や臨時利用の病院とも情報共有、連携を意識している	かかりつけ医は本人や家族の希望によって決められている。受診が必要な際は送迎の支援が主に行われており、院内の付添いは家族に依頼する時がある。医師や看護師、訪問看護師等と連携し情報の共有がなされている	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護専用ファイルにより各階毎に引き継ぎを行い、訪問看護からの気付きも把握、連携出来る様に努めている。また介護間等での引き継ぎも、別ノートを作成し、情報共有を心掛け、異常の早期発見、早期対応を心掛けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	情報提供書の速やかな提出、電話連絡等の対応を密に行なっているが対応職員が限られ負担の偏りは多少ある。普段より受診の多い病院に関しては外来、病棟での顔馴染みにより言葉かけ、関係作りが出来ている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、看取りに向けて早い段階より利用者様の状況の情報共有を心掛け、家族様や医師等と確認、話し合いを設けながら方針を決定している。地域葬儀社等々とも地域資源としての交流、連絡、連携がとれるよう関わっている	入所時より重度化や看取りについて、本人や家族等と意向を確認しながら、医師の看取り期の宣告があれば、家族等や医療関係者と話し合いを重ねながら、方針を共有し最後まで穏やかに過ごせるよう配慮がなされている	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時についての勉強会、対応訓練について定期的に開催しても全員の参加の調整が難しく、実践力が身に付けているとは言えない。応急手当の理解も差が激しい		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、防災、避難訓練等の定期的実践や認識の高さはある。しかし地震や水害に対しての認識については乏しい面もある。自治会長や消防との定期的な意見交換の場を心掛け、協力体制を築ける様に努めている	災害の多様なシーンに合わせた訓練は行われているが、建物の立地から火災以外は避難せずに踏みとどまったほうが良いと判断されている。消防署や自治会の協力も得やすい環境があり、今後も防災の対策を行う用意がある	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格や認知症症状の差の激しさから言葉かけに対しての認識の薄れ、甘さが見えている。尊厳、プライバシー等々をより意識しながら聞き取り易い、理解しやすい言葉かけや対応を心掛ける必要がある	利用者一人ひとりの理解度や認知度により、言葉遣いや話し方を変え伝わり易いよう配慮されている。原則名前に敬称をつけて呼ばれており、一対一でゆっくり対応がなされている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴の工夫や選択出来るような問い掛け、言葉かけを意識し、導き出しに時間を要したとしても利用者様自身による自己決定、自己選択を出来る様、対応や支援を心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	室温調整ひとつにしても職員の感じ方、都合を優先するのではなく感じ方の差を考慮しながらの調整や工夫を行っている。過ごし方、行事参加に関しても個々人のペースや希望に沿いながら提供や見守りを心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪時、長さ、カットに関してもカット前やカット中に要望を伝えて貰い添える様にし個別に身だしなみや御洒落を楽しめるようにしている。カットする、しないも希望を尊重している。入浴後の衣類選択や整髪、起床時の身だしなみの整え方も個別で対応している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューボードを用意し、事前にメニューを確認出来るようにしている。食べ易い食器類の用意や使用の支援、食事形態の工夫を行っている。御盆、エプロン等の準備や洗濯量み等の片付けも利用者様の協力が得られ、一緒に取り組んでいる	料理はユニットの中央部分で作られ、カウンター越しに利用者が調理の様子も見られるようになっている。基本、食事の準備や片付けは職員と利用者が一緒に行われ、外食なども取り入れられている	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に主食量や食事形態を調整し、提供し適宜相談、変更調整を行っている。水分摂取に関しても飲みやすいものを確認、用意したり、小まめに提供を心掛けている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個別に誘導し義歯、自歯、舌等の状態の確認、ブラッシング力、理解等の確認に努めながらケアの実施を心掛けている。週1の訪問歯科後、訪問歯科による別記録を参考にしている		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自発的な排泄の訴えを基本としながら、定期的な誘導も含めトイレでの排泄や自立に向けた支援を意識している。パンツ、リハビリパンツ等の切り替え等も段階を経て対応している	排泄記録に基づき、適時の支援により失敗ないように心掛けられている。排泄は無理のない限りトイレで行い、自然に排泄が出来るよう努められている	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、体操を日課として取り組んでいるが自然排便が困難な方には医師からの指示により下剤服用、排便コントロールを行っている。適宜、下剤種類の変更の相談もしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間、曜日に関しては施設主体の提供になってしまっているが、入る順番は都度声掛けを行い、希望に添える様に対応している。安心して入浴できるよう、羞恥心にも配慮している	日曜日以外は午後入浴が実施され、一人週3回から4回は入浴の機会がある。特浴と一般浴があり、保湿性の高い入浴剤の使用や、自分の好みのシャンプーが使用できるなど配慮がなされている。また、可能な人は、着替えの準備等もご自分でなされている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	21時の消灯時間までは本人の意思を尊重し、ホールでテレビ鑑賞をされる方、居室で休まれる方、居室でテレビ鑑賞をされる方と様々に過ごして頂いている。夜間も巡視時、トイレ離床時に観察対応を気を付けている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効果、副作用等々をファイルを個人で設け、変更等があれば適宜、情報、理解認識の共有に努めている。服薬支援時には必ず2名以上で名前、日付等を確認を行い、状態の変化等、早期発見早期対応に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しや畳等、軽作業家事を手伝って頂いたり、レクリエーション外出行事等を通じて役割や楽しみを感じて頂ける様に努めている。個々の力や興味の差にも配慮している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望は難しさがあるものの、天候等に応じて施設周辺への散歩に出かける。行事を通じて、近隣の喫茶店や寿司店舗での食事、初詣、薔薇見学、地域や季節を感じる取り組みを意識している。可能な場合、家族様にも一緒に参加して頂いている	天気が良ければ近所の公園や民家に散歩に出かけられている。季節毎に、お花、喫茶、外食など少人数で出かけられている。職員は企画や下見、送迎や付添いを行っており、利用者の喜ぶ顔が支えとなっている様子。家族の協力や地域住民等との関係も良好と感じる	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	希望や力に応じて金銭の使用、所持を試みている。初詣参拝時、賽銭を持つての参拝。病院受診時には支払と一緒に確認して頂く等している。1人での外出、買い物に関しては代理での動きを伝え、了承して頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様や家族様の希望に応じて、事務所内電話を使用して頂いている。年賀状等も自分で書ける方には書いて頂いている。手紙や葉書が届いた際には、声掛け、確認後に御渡ししている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	現在、認知症症状の程度差が酷く、共有トイレの一部選挙が見られている為、なかなか平等な使用が行えていない。鏡等も症状の悪化、刺激となる為、一部カバー等の工夫を行っている。発汗差も有る為、座席等への配慮も行っている。	日中はそれぞれ、本人の好むところで過ごされている。共用の空間は皆で過ごしやすくなるため、セッティング等工夫されている。温度や湿度は快適に保たれ、床は清潔で移動に障害ないように整理・整頓が行き届いている	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室でのテレビ鑑賞を希望される方には居室対応を行い、1人の時間の希望も尊重している。共用ソファーに関しては、使用者が偏らない様に譲り合いや進め方の工夫を行っている。テーブル等も食事時以外は思い思いに寄り合える様、心掛けている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた衣類ケース、小物、テレビ等の持ち込みをして頂き、少しでも居心地良く馴染み易い環境作りを徹すると同時に、掃除や物の移動の際には必ず独断では行わず、本人様に確認して貰いながら行う様に心掛けている	私物の持ち込みは大きなものや危険なもの以外は可能で、使い慣れたものが居室に配置されている。掃除、片付けなどは本人の意思を確認しながら一緒に行うなど混乱がないように配慮がなされている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個別の出来る事、分かる事の差が大きい為、移動のしやすさ、車椅子の入り易さ等を配慮しての出入り口とベッド位置の調整、立ち上がり易い様な位置での柵の使用設置等を心掛けている		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が				
		○	2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

## 自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員トイレ、事務所、更衣室等々、理念を目につきやすい場所に貼り、意識共有に努めている。朝食前の体操時、締めくりに理念を口にする事で、利用者様とも共有を心掛けている。しかし実際、笑顔ばかりで過ごす事は難しく実践を不十分と感じる事も多い
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	夏祭、餅つき、ハロウィン等々、地域交流を心掛けている。外食、おやつレクリエーション時には、なるべく地域活性、交流を意識し地域近隣施設の店の使用等を心掛けている。公園への散歩、御庭の薔薇見学等の季節に応じた交流も行っている
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議等を通じて地域の方々への施設状況、認知症と共に生きる利用者様についてを伝え、相談窓口となれるよう意識している。レクリエーション時、近隣店舗を利用する事で身近に感じたり実際の声掛けや直接介護支援等を眼にして頂ける様、意識している
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの実際は事故、研修、病気等々を含め会議時に報告、評価等をお知らせし、その場で質問や意見を受けている。実際、質問から対応を掘り下げ、より健やかに安全に過ごして頂ける様、支援サービス向上を意識している
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域の公園の使用、会議での意見交換の場、電話連絡等々により事業所としての実情の理解、サービスの実際を伝え、双方に協力関係が築ける様に努めている
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議、勉強会の場等で県の拘束における指針を周知し、全員が意識していく様に心掛けている。各フロアでは利用者様個別により医師からの指示も有り、随時報告、相談を行いながら拘束をしない、懐柔を目指し取り組んでいる
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士が互いに勉強会等で学び合い、意識して利用者様と関わる事が出来る様心掛けている。休憩室等への貼り紙、会議の場での施設長からの話等、普段から虐待を防止出来る様に努めている



自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業や制度についての直接の学びの機会は少なく、間接的に周知、情報共有しているのが常になっている。様々な家族、利用者様の姿が有る中で、より個々の必要性に応じた支援提供が出来る様に連携、活用する必要がある
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学時、直接面談時、契約時、説明確認を行っている。又契約以降も、適宜に不安や疑問について傾聴を行い、理解、納得して頂ける様に努めている
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、会議の場での要望、質問に対して対応している。意見箱の中身に関して個人特定出来ない様に掲示、答えを伝える以上に、それらを踏まえた上での全体会議等の場での施設長による周知、話、運営反映を心掛けている
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見提案等の場実際に、参加出来る機会が少なく、偏りが目立っている。結局、個人が直接に施設長へと話をしに行ったりする事が多く、個々の業務間や業務外の時間に聞く機会を設ける必要があるのが通常である
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力実績、状況の把握は行っているが、やりがい以上にプレッシャー等への配慮に差があり、業務の負担や偏りは否めない。その中でも向上心を持てるよう、少しでも働きやすいようにフォローや手当、整備等に努めている
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部への研修確保を行い、定期的な学びの機会を設けているが、全体的な育成の取り組みにはなっておらず偏りがある。また選択権が無く、独裁的な研修参加、研修参加した結果が活かされていない、参加しただけの実際の理解が乏しい認識者が多い
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会、講演会に参加した者は同業者と交流する機会が持て、意見交換等が行え、ネットワーク作りや訪問機会を意識している。また各々が交流により得た情報や機会を活かそうとしている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様が職員に対して話しやすい関係に慣れる様、信頼関係を築ける様に、寄り添い、気遣いの気持ちを大切に声掛け、会話を行う様に努めている
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っている事、不安な事、要望等、面会時や電話時に適宜、打ち明けて頂ける様な声掛けを心掛け、傾聴を実施し、どの職員にでも話して頂けるような関係作りに努めている
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	聞き取り、見極めの際、どうしても本人様以上に家族様の必要としている、望まれる支援等が優先されている事が多く感じる為、何を望まれるか、どう過ごされたいかを想像しながら可能な限り最善のケア導入を心掛けている
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、洗濯物たたみ、干し等の日常生活の色々な作業と一緒に頂く事で、職員も助けられ、利用者様に感謝を伝え、ともに生活環境を過ごしている事を意識してもらえよう心掛けながら、自力の力も少しでも利用者様自身で意識してもらえよう意識している
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出、施設内行事の案内、参加を御誘いし、本人様と家族様の絆、関係性が希薄にならないように大切に、ともに利用者様の生活を支えていけるよう心掛けている
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様や御友人等の面会時、本人様の居室にて落ち着いて一緒に過ごしてもらえよう配慮している。希望に応じて、家族様との外出の対応もしている
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の関係性、個性を理解しながら利用者様への声掛けが偏らない様に意識して対応を行っている。居室で過ごしたい、皆と居たい等の希望に応じて対応を行っている。妄想、相性の影響もありテーブル位置も配慮している
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も地域住民としての会議参加や行事案内を通じ、関係性を保ち大切にさせて頂いている。疾病や物品購入等についての相談、支援、協力も努めている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の聞き取り、対話等により意向や希望の把握に努めている。観察力、対話力等を高め柔軟な対応に努め、整理整頓や片付けも一緒に取り組み、困難時には確認して貰い本人主体の支援や対応を心掛けている
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様からの聞き取りが主体になっていたが、くもん学習療法での対話を通じ、昔話から生活歴や馴染み、環境等々の把握に繋がる事も多い
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録、ノート等を活用し報告、連絡、相談を意識している。現状の把握や1日の流れでの変動、変化に関しても密に適宜、把握や情報共有する様、目標に掲げたりしながら努めている
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のミーティング時や、それ以外の場でも利用者様の状況に応じての意見交換、家族様からの意見収集に努めた上で、介護計画の作成や支援提供に努めている
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	随時、記録用紙の見直しをしながら日々の様子や言葉、ケアについてを個別に記録している。ケアプランのチェックも忘れずを心掛け、計画の見直しにも活かせるように気を付けている
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様が対応が厳しい場合等、付添い介助等受診している。GW時等、特別な場合でも適宜、担当医と相談し、協力病院以外の対応も行い、状況やニーズに応じて臨機応変を心掛けている



自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣公園の活用、保育園児との交流、施設設備の活用により外気浴を楽しんだり散歩を楽しんだり出来るように支援を心掛けている。衰え始めた身体を再認識し、日々の運動の心掛けにも繋がっている
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様の状態の把握、情報共有を心掛け、家族様や利用者様の要望、希望を尊重し対応している。掛かり付け医や臨時利用の病院とも情報共有、連携を意識している
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護専用ファイルにより各階毎に引き継ぎを行い、訪問看護からの気付きも把握、連携出来る様に努めている。また介護間等での引き継ぎも、別ノートを作成し、情報共有を心掛け、異常の早期発見、早期対応を心掛けている
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供書の速やかな提出、電話連絡等の対応を密に行なっているが対応職員に限られ負担の偏りは多少ある。普段より受診の多い病院に関しては外来、病棟での顔馴染みにより言葉かけ、関係作りが出来ている
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、看取りに向けて早い段階より利用者様の状況の情報共有を心掛け、家族様や医師等と確認、話し合いを設けながら方針を決定している。地域葬儀社等々とも地域資源としての交流、連絡、連携がとれるよう関わっている
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時についての勉強会、対応訓練について定期的に開催しても全員の参加の調整が厳しく、実践力が身に付けているとは言えない。応急手当の理解も差が激しい
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、防災、避難訓練等の定期的実践や認識の高さはある。しかし地震や水害に対する認識については乏しい面もある。自治会長や消防との定期的な意見交換の場を心掛け、協力体制を築ける様に努めている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格や認知症症状の差の激しさから言葉かけに対しての認識の薄れ、甘さが見えている。尊厳、プライバシー等々をより意識しながら聞き取り易い、理解しやすい言葉かけや対応を心掛ける必要がある
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴の工夫や選択出来るような問い掛け、言葉かけを意識し、導き出しに時間を要したとしても利用者様自身による自己決定、自己選択を出来る様、対応や支援を心掛けている
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	室温調整ひとつにしても職員の感じ方、都合を優先するのではなく感じ方の差を考慮しながらの調整や工夫を行っている。過ごし方、行事参加に関しても個々人のペースや希望に沿いながら提供や見守りを心掛けている
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪時、長さ、カットに関してもカット前やカット中に要望を伝えて貰い添える様にし個別に身だしなみや御洒落を楽しめるようにしている。カットする、しないも希望を尊重している。入浴後の衣類選択や整髪、起床時の身だしなみの整え方も個別で対応している
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューボードを用意し、事前にメニューを確認出来るようにしている。食べ易い食器類の用意や使用の支援、食事形態の工夫を行っている。御盆、エプロン等の準備や洗濯置き等の片付けも利用者様の協力が得られ、一緒に取り組んでいる
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に主食量や食事形態を調整し、提供し適宜相談、変更調整を行っている。水分摂取についても飲みやすいもの確認、用意したり、小まめに提供を心掛けている
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個別に誘導し義歯、自歯、舌等の状態の確認、ブラッシング力、理解等の確認に努めながらケアの実施を心掛けている。週1の訪問歯科後、訪問歯科による別記録を参考にしている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自発的な排泄の訴えを基本としながら、定期的な誘導も含めトイレでの排泄や自立に向けた支援を意識している。パンツ、リハビリパンツ等の切り替え等も段階を経て対応している
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、体操を日課として取り組んでいるが自然排便が困難な方には医師からの指示により下剤服用、排便コントロールを行っている。適宜、下剤種類の変更の相談もしている
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間、曜日に関しては施設主体の提供になってしまっているが、入る順番は都度声掛けを行い、希望に添える様に対応している。安心して入浴できるよう、羞恥心にも配慮している
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	21時の消灯時間までは本人の意思を尊重し、ホールでテレビ鑑賞をされる方、居室で休まれる方、居室でテレビ鑑賞をされる方と様々に過ごして頂いている。夜間も巡視時、トイレ離床時に観察対応を気を付けている
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効果、副作用等々をファイルを個人で設け、変更等があれば適宜、情報、理解認識の共有に努めている。服薬支援時には必ず2名以上で名前、日付等を確認を行い、状態の変化等、早期発見早期対応に努めている
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しや畳等、軽作業家事を手伝って頂いたり、レクリエーション外出行事等を通じて役割や楽しみを感じて頂ける様に努めている。個々の力や興味の差にも配慮している
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望は難しさがあるものの、天候等に応じて施設周辺への散歩に出かける。行事を通じて、近隣の喫茶店や寿司店舗での食事、初詣、薔薇見学、地域や季節を感じれる取り組みを意識している。可能な場合、家族様にも一緒に参加して頂いている



自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望や力に応じて金銭の使用、所持を試みている。初詣参拝時、賽銭を持つての参拝。病院受診時には支払と一緒に確認して頂く等している。1人での外出、買い物に関しては代理での動きを伝え、了承して頂いている
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様や家族様の希望に応じて、事務所内電話を使用して頂いている。年賀状等も自分で書ける方には書いて頂いている。手紙や葉書が届いた際には、声掛け、確認後に御渡ししている
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	現在、認知症症状の程度差が酷く、共有トイレの一部選挙が見られている為、なかなか平等な使用が行えていない。鏡等も症状の悪化、刺激となる為、一部カバー等の工夫を行っている。発汗差も有る為、座席等への配慮も行っている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室でのテレビ鑑賞を希望される方には居室対応を行い、1人の時間の希望も尊重している。共用ソファーに関しては、使用者が偏らない様に譲り合いや進め方の工夫を行っている。テーブル等も食事時以外は思い思いに寄り合える様、心掛けている
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた衣類ケース、小物、テレビ等の持ち込みをして頂き、少しでも居心地良く馴染み易い環境作りを徹すると同時に、掃除や物の移動の際には必ず独断では行わず、本人様に確認して貰いながら行う様に心掛けている
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個別の出来る事、分かる事の差が大きい為、移動のしやすさ、車椅子の入り易さ等を配慮しての出入口とベッド位置の調整、立ち上がり易い様な位置での柵の使用設置等を心掛けている